

國學院大學學術情報リポジトリ

「第13回学生宗教意識調査」の実施ならびに同報告書の刊行

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000594

「第13回学生宗教意識調査」の実施ならびに同報告書の刊行

國學院大學日本文化研究所（2007年より國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所）では、1995年から2015年まで、「宗教と社会」学会の宗教意識調査プロジェクトと合同で、12回に亘り学生宗教意識調査を行ってきた。

これまでの調査結果は、各回の調査報告書ならびに、総合報告書（2017年2月）・総合分析（2018年2月）などにまとめられている。

重ねて実施され続けてきた調査は、若者の宗教意識および宗教リテラシーの状況を窺える大規模調査として、研究への活用に留まらず、メディアでも広く一般に紹介されてきた。

2015年の第12回調査から5年が経過して、学生の情報環境も変わり、またこの間には天皇の御代替わり、平成から令和へという時代の変化もあった。そこで、改めて学生宗教意識調査を実施する意義があると考え、下記の研究機関、プロジェクトと共催で調査を実施し、日本文化研究所において調査結果を整理して、その報告書を刊行するに至った。

【2020年学生宗教意識調査参加団体（研究プロジェクト）】

- ・國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所
- ・「宗教と社会」学会・宗教文化の授業研究プロジェクト
- ・宗教文化教育推進センター
- ・科研費「日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究」（基盤研究（B）研究代表・平藤喜久子）
- ・科研費「高齢多死社会日本におけるウェルビーイングとウェルディングの臨床社会学的研究」（基盤研究（B）研究代表・櫻井義秀）

【調査報告書】

・『第13回学生宗教意識調査』（國學院大學研究開発推進機構 日本文化研究所、2021年2月）

<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ijcc-publications/csatrs2020>

2020年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、社会全体が非常に大きな影響を受けた。生活様式は変化を迫られ、大学ではオンライン形式による授業の続いたところも多かった。厳しい研究教育の環境にあって、13回目の調査もオンライン形式での実施となった。

従前は4月～5月に教員が回答用紙を配り、収集し、入力するという形で調査が行われてきたが、今回は授業時に教員がGoogle FormsのURLを周知し、学生が任意で入力するというスタイルであった。集計作業は格段に省力化されたが、教室での一斉実施でなかったこともあって回答者は1,656名に留まり、前回2015年の5,773名に比べると、大幅な減少となった。

一方で結果について、例えば「現在、信仰をもっている」と答えた者の割合は10.7%、前回の10.2%と比べても大きな変化はなく、大規模調査と比較してもある程度は偏りの少ないものであったと考えられる。

また、今回の調査では、天皇の即位をめぐる問題、女系天皇に対する認識、ジェンダーについての意識など、昨今、社会的に重要な課題とされる問いも設定した。学生という一つの世代に注目した調査として特徴を持っており、今後、大いに活用の可能性が期待されるものである。（平藤喜久子）